

NIHONJIN NO WASUREMONO  
第2部 忘れもの 18  
忘れもの

対談

# 紙の文化

柿本●当社は1845年の創業以来、紙一筋でこんにちまでの歴史を刻んできました。ところが近年、IT革命といわれるデジタル技術の飛躍的進化により、特に情報伝達媒体としての紙の役割が縮小しつつあることは否定できません。

では、パソコンや携帯端末の普及により紙媒体は完全に衰退するかどうか、私は決してそうはならないと予測しています。事務的な文書の多くはデジタルが取って代わるとしても、私信などでの紙媒体の重要性は根強く残ると信じています。

昔の人の書に代表される手書き文字の、選ばれた紙、筆の進め方、筆跡、余白を見ると、書いた人の人生観そのものが如実に表れ、文章の意味以上の情実をも、私たちに伝えてくれます。私は墨跡の鑑賞や収集が道楽で、平安時代末期から鎌倉時代初期に活躍した歌人、藤原定家や西行、寂蓮の書を眺めていると、ビジネスの楽しさとは違いう、彼らの世界観、人物像が頭に浮かび心が和みます。

佐藤●確かに情報伝達媒体としての紙産業の将来は厳しいものがあるでしょう



●かきもと・しんや  
1952年、京都市生まれ。81年、柿本商事に入社。83年、父である先代の急逝により代表取締役役に就任。1845年創業の紙問屋としての歴史を守りつつ、新たにコンピューター事業の「紙可柿本」や「恋文大賞」などの出版情報事業を展開。今後PB商品を含めた貿易事業にも取り組む予定。

●さとう・のりじ  
1955年、山口県生まれ。早稲田大学政経学部卒。80年、電通に入社、新聞雑誌局、マーケティング局を経て、ソフト化経済センターに研究員として出向。98年に退職し立命館大経営学部環境デザイン学研究所に就任。著書に「デザインの経済学」「文化の時代を生きるために」など。



柿本新也氏

柿本商事株式会社代表取締役社長

## 手書き文字には書いた人の人生観が表れる

## 恋文は人と人をつなげる効果的な媒体

## 佐藤典司氏



立命館大経営学部 環境デザイン学専攻 教授

でも、19世紀前半に写真が発明されたとき画家は失業すると言われた歴史がありますが、決してそうはならなかった。写真はリアリズムの極地ですが、絵画は人間の考えそのものを表出する芸術でもあるからでしょう。

ただ単にコップがあると示すだけの指示表出と、コップの造形が美しいという感情を込めて表現する自己表出の違いが写真と絵画にはあります。情報があふれている現在、自己表出の大切さが問われているのではないのでしょうか。

学生たちの様子を見ていると、他人の示す価値観をそのまま単純に受容して、自分自身の主観的表現、自己表出を失いつつあるように思えてなりません。

柿本●急速に普及している携帯端末には、キー操作をできるだけでなく、メール

用の定型文が用意されています。なにがしかの文章を書くときでも、インターネットに掲載されている他人の書いたものをコピーして貼り付けて済ませてしまう。これでは文章を考える力が失われます。

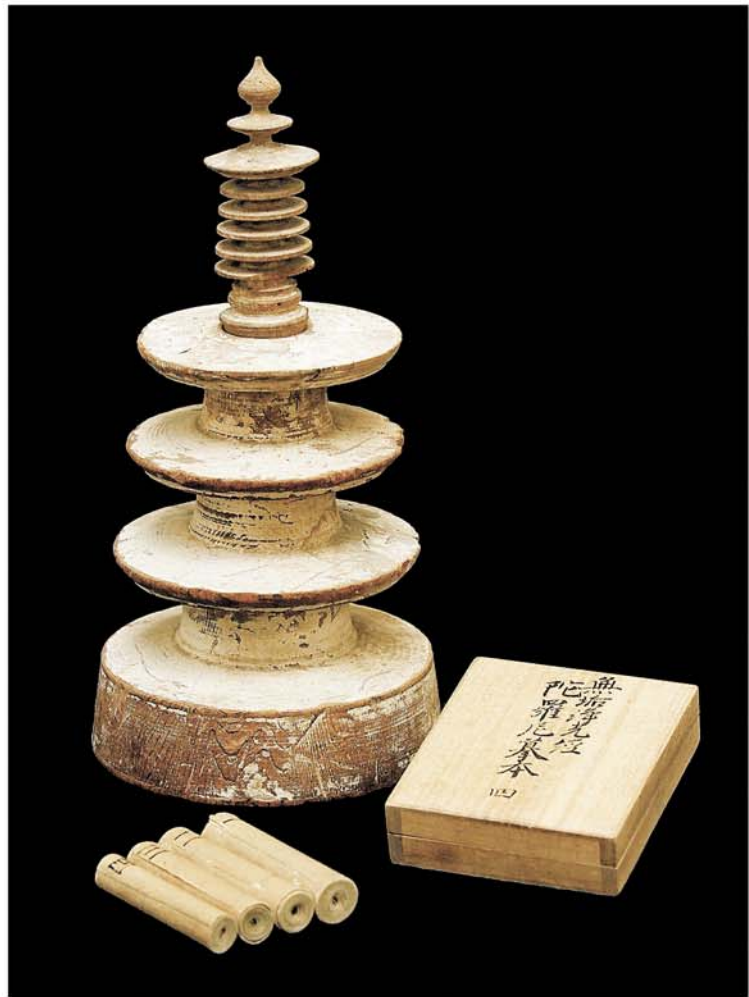
当社が3年前に創設した「恋文大賞」の公募は、文字・活字文化の伝承、教育、創造力の維持・向上を目的としています。おかげさまで反響が大きく、全国各地から若男女問わず応募があります。佐藤先生にも審査員になっていただいたので、今年も11月3日に入選作を発表予定です。

佐藤●恋文といえば、文字が日本に伝えられてから、人と人をつなげる最大の効果的な媒体でした。また、好きな人を含めて他人とお互いの人となり

戦後、日本人は物の豊かさ引き換えに大切なものを忘れてきたのではないだろうか。日本人が忘れつつある価値観が今も生き続ける千原の都・京都から温故知新の知恵を発信する。(毎週日曜日に掲載します)

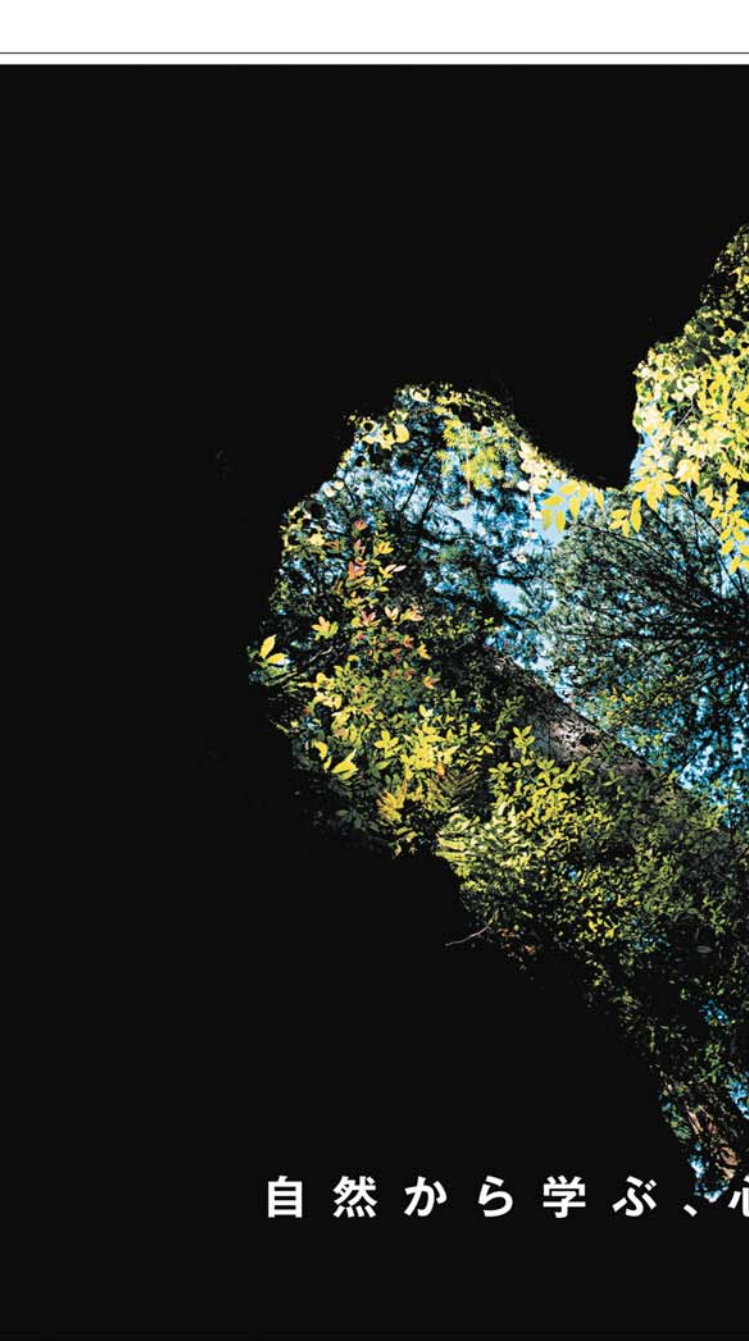
何をしているのかを気にすることで、チュニジア革命や、エジプトの反政府運動を誘因したことなどは、ネット社会だからこそ生まれた行動だったことは事実です。

ただ日本では、ものや雑多な情報が身近に手に入る現代社会で人間の持つ動物的な本能、五感が薄れつつあることを、私は非常に危惧しています。目の前にある平面的なことだけで判断することなく、歴史の縦軸を見据え感性を鋭く磨き、進むべき射程を広くする



770年に和紙へ木版印刷された仏教のお経集「百万塔陀羅尼」。現存する世界最古の印刷物とされている。

●「きょうの心伝て」募集  
あなたの思う「日本人の忘れもの」は何ですか？暮らしの中で忘れてはならないと思う日本人の心の承継や、伝えたい京都に残る心遣いなどをお寄せ下さい。京都新聞社で選考、添削する場合があります。原稿は返却いたしません。タイトル(12文字以内)と本文(400文字以内、縦書き)住所、氏名(匿名は不可)、職業、年齢、電話番号を明記し、〒604-8577 京都新聞COM「きょうの心伝て」係まで。  
E-mail: wasuremono@nhkkyoto-np.co.jp  
FAX: 075-222-1220  
●日本人の忘れものは、京都新聞ホームページ  
http://kyoto-np.jp/kyo\_nm/info/nwc/よりご覧いただけます。



自然から学ぶ、心があります。

きょうの季節せ(十月)  
落ちくたて  
鮎は木の葉と  
なりにけり  
前田普羅

川の瀬に築が仕掛けてあれば、こぼれ落ちてしまふ鮎もあるが、落鮎は産卵のために川を下ってゆく。そして、その姿の見えなくなつたあとは、散りゆく木の葉が川面に落ちて流れてゆく。

鮎が木の葉か、木の葉が鮎か、作者の思いの大胆は「人殺す我も知らず飛ぶ雀」「盗人とならで過ぎけり虫の門」と自己を内観する。(文・岩城久治)

生命の大切さ。生きていることへの感謝、そして、自然そのものに対する畏敬。

病院や介護・福祉施設の様々な業務をサポートする私たちワタキューセイモアは、自然保護活動を通じて、自然に対する感謝の気持ちと謙虚な姿勢を養うことで、いのちの現場を支えていく社員ひとりひとりの「心」を育みたいと考えています。

「心」を社是に、自然への感謝の気持ちを心に込めて。

健康と快適の明日を考える  
ワタキューセイモア株式会社

本社 / 〒610-0396 京都府綴喜郡井手町多賀茶臼塚12-2  
本 部 / 〒600-8416 京都市下京区烏丸通高辻下る薬師前町707 烏丸シティコアビル TEL. 075-361-4130

www.watakuyu.co.jp